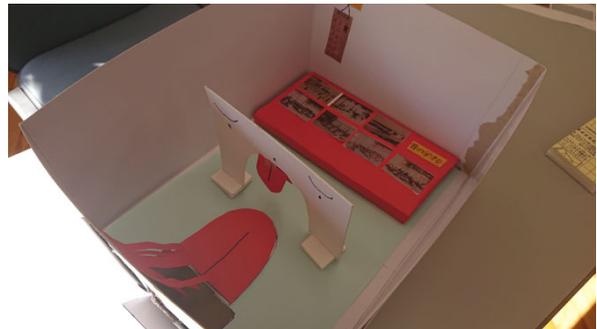


## 【事業実績】

### (1) ワークショップ（京都）

事業構成団体である京都府立聾学校において、中等部・高等部生徒を対象として、ワークショップを実施した。同校が保管する重要文化財京都盲啞院関係資料から絵画資料を中心に選定し、箱のなかに展覧会を構成するという内容を授業として取り組んだ。

- ・ 8月31日                      プレワークショップー実行委員会メンバーにて試行
- ・ 12月21・24日              ワークショップ（写真）



#### 生徒感想(抜粋)

- ・展覧会を作るのは初めてだったのでワクワクしました。完成した時、本物の展覧会っぽくなってきて嬉しかったです。
- ・客が楽しめるようなことを考えるのがとてもむずかしかったです。それでも自分の思ったとおりにきれいに自然っぽく博物館をつくることができとても良かったと思いました。
- ・聾学校の文化財は改めて分かりました。だけど、それをどうやって皆に伝えるか、楽しめるような博物館を考えるのは大変でした。

### (2) ワークショップ（大阪）＝検討のみ、未実施

当初予定していたイベントでのワークショップが実施できなかったために、ワークショップの方向性を検討した。構成団体である川村義肢株式会社において、同社の歴史資料室の見学会（オンライン参加含む）を実施し、同社の資料について検討した。

- ・ 3月5日                      資料調査



川村義肢株式会社での調査



京都府立聾学校での調査

### (3) 資料調査

- ①構成団体である上越市立歴史博物館とともに旧高田盲学校の資料を調査し、目録を作成した。
- ②京都府立聾学校に保管された未指定の文化財の調査を行い、目録を作成した。

- ・ 8月18-21日ほか              高田盲学校資料の調査
- ・ 10月26-27日ほか              京都盲啞院関係資料、指定外資料の調査

#### (4) 国内調査

- ①パラリンピック資料に関連し、太陽ミュージアム（大分県）の視察を行い、パラリンピックの父と呼ばれる中村裕関連資料を確認するとともに、九州国立博物館にて実施されているレプリカを活用した視覚しょうがい者支援の展示を見学した。また、今後の方向性を検討するため、研究会を実施した。
- ②表象に関わる問題を扱った展示として「性差の日本史」、パラリンピックをテーマとした展示を行うパナソニックミュージアム、盲学校の生徒作品を長年展示しているギャラリー・トムの視察を行った。
- ③パラリンピックを紹介する展示「病床からフィールドへ」（しょうけい館・東京）を視察した。
  - ・ 9月 19-20日 太陽ミュージアム・九州国立博物館
  - ・ 11月 21-22日 国立歴史民俗博物館・パナソニックセンター東京・ギャラリーTOM
  - ・ 3月 28日 しょうけい館



太陽ミュージアム



ギャラリーTOM

#### (5) レプリカの制作

ワークショップや展示等に活用するため、京都盲啞院関係資料のうち、特に閲覧希望の多い資料についてレプリカを制作した。制作した「画掌法図」は、手に文字を書くことで言葉の伝達ができることを視覚的に表現したもので、手話以前の聾教育の様子を伝える資料である。

#### (6) アンケートの実施

聾学校校長会の協力を得て、全国の聾学校に所在する文化財について、その現状把握につとめた。

#### (7) 報告

視覚・聴覚しょうがい者、パラリンピック、義肢装具などに関わる資料は、その所在確認が難しいため、学会等での報告を通じて広く活動を周知した。

また報告書を発行し、全国の美術館・博物館に送付することで、事業の内容を周知した。

#### ※備考

1月の非常事態宣言を受け、新潟県立歴史博物館で予定していたワークショップ、シンポジウム、展示が中止となった。